



沓掛小学校だより

9月号

未来を拓く ～元気・やさしさ・かがやく瞳～

NO. 592

<http://www.suginami-school.ed.jp/kutsukakeshou>

防災・防犯について

校長 鈴木 祐一

長い夏休みが終わりました。静かでひっそりとしていた校舎が、子供たちの登校とともに、一瞬の間に息を吹き返しました。今年の夏は、連日の猛暑や豪雨、台風に関するニュースが多く、異常気象を身近に感じた方も多かったのではないかと思います。

今朝、久しぶりに正門前で、たくさんの荷物を手にもち、元気いっぱいの子供たちがやってくる姿に出会ったことや、体育館での始業式で凛々しく傾聴している子供の様子に、うれしさとともに大きな怪我もなく全員元気なので安堵の思いがしました。

さて、9月1日は「防災の日」でした。この日を含む1週間（8月30日～9月5日）が「防災週間」と定められています。本校では、本日、大地震が発生し、非常事態宣言が発令されたときに、保護者の方に安全に引き渡すねらいで訓練を行いました。

避難訓練では子供たちに、「お・か・し・も」（お→おさない か→かけない し→しゃべらない も→もどらない）という言葉で避難の心構えを指導しています。これは、落ち着いて、安全に、そして周囲からの注意をよく聞いて避難するという意味です。災害は、いつ起こるかわかりません。授業中、教室で担任の指示が届く場所にいるときだけでなく、休み時間に運動場で遊んでいるときかもしれません。校内放送が使えなくなることも考えられます。常に最悪の場合を想定しておかねばなりません。そのため、

- ① 自分の力で周囲の状況を確認し、どこへ避難したら安全か判断する。
- ② 高学年の児童は、周りに低学年の子がいたら手を引いてひいて避難する。

学校では「自分の命を自分で守ることができる子供」を育てたいと願っています。

ご存知の通り、6月に起きた大阪の地震では、学校の塀が崩れ尊い命を失いました。

本校では、地震直後に学校内外の安全点検を行いました。また、杉並区と学校が連携し学区域の安全点検を行っています。しかし、学区域は広いので見落とししてしまう場合も考えられます。ご家庭でも登下校中に危険な箇所はないのかお子さんと話し合っていたいただきたいと思います。

また、「安全教育」では、地域・社会で起こる犯罪や危険について理解させ、安全に行動できるようにすることを目標にし、「いかのおすし」（ついていかない・車にのらない・大声をだす・すぐにはげる・知らせる）の約束を常に確認しています。ぜひ、ご家庭でも子供が一人で外出するときには声かけをお願いします。学校では、子供が危険な行動をしていれば、教師がその行動に気付き、その場で指導し、安全確保に向けた知識や行動の仕方を教えています。しかし、一旦学校を離れた子供の行動を学校が把握することは困難です。「地域で子供を育てる」は昔から大切にされていることですが、子供が事件や事故に巻き込まれることなく安全に生活するためには、地域・保護者の皆さんの力が何よりも大切になります。「何か変だな、何か危ないな」と感じましたら、すぐに警察に通報していただき、その後に学校にご連絡ください。よろしくをお願いします。

秋という季節は「実りの秋」「灯火親しむ秋」といわれるように、気候的にたいへん過ごしやすく、落ち着いてじっくりとものごとに取り組むのに最適なときです。運動会、社会科見学、生活科見学など、児童が主体となって活躍する学びの場が多く計画されています。それぞれの学年により、なすべき内容は異なりますが、一日一日を大切に、己を鍛え、実力を蓄えるときにしてほしいと思います。今後ともよろしくお願いたします。